

地域リハビリテーション出前講座の実施結果について

1 目的

高齢者や障害のある方を含めた全ての人が安心して暮らすことの出来る地域社会の実現に向け、子供の頃から適切な健康感やノーマライゼーションの考え方を学習することが重要である。

そのため、希望する小学校にリハビリテーション専門職を派遣し体験講座を行うことにより、地域リハビリテーションに対する関心を深めることを目的とする。(別添1参照)

2 講師

千葉県リハビリテーション支援センター及び各広域支援センター所属のリハビリテーション専門職

3 講座内容

①車椅子利用者が困っていたら？（車いすの基本的な操作や段差の登り降り等の体験を通して、障害のある人や高齢者との接し方や環境のあり方を理解する。学校の要望に応じて高齢者疑似体験も実施。）

②リハビリテーションに関わる仕事知ろう！（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士について、体験を通して仕事内容を知る。）

4 実施結果

応募のあった全11校で講座を実施した。

地 域	圏 域	校 数	内 容
千葉市	千葉	4校	①3校、②1校
船橋市	東葛南部	1校	②
浦安市		1校	①
八千代市		1校	①
柏市	東葛北部	1校	②
香取市	香取海匝	2校	①1校、②1校
東金市	山武長生夷隅	1校	②
計		11校	①6校、②5校

5 アンケート結果（抜粋）

(1) 教員

【成果】

- ・車いす利用者の視点で身の周りを見られるようになった。
- ・児童の感想を見ると理学療法士や作業療法士の仕事を理解できている子が多かったです。上着を片手で脱いだり、着たりする体験活動を行い、体の不自由な方の大変さと、着るための工夫を知れたのは効果的であったと思います。

【要望】

- ・車いす体験だけではなく、考え方や接し方等の知識的なところも教えてもらえると嬉しい。
- ・学校現場は忙しいので、できれば備品は講師側で用意してほしい。

【感想】

- ・講師の先生方と事前に連絡を密にとることができてよかったです。
- ・児童にも分かりやすいと好評でした。ありがとうございました。
- ・講師の先生方のお話が分かりやすく、子供たちの体験も充実していました。
- ・児童が親しみやすい雰囲気ですべてを進めていただきました。
- ・講師の方が丁寧に子供たちを見てくださり、意欲的に体験に参加することができました。

(2) 児童

【リハビリテーションについて】

- ・リハビリは、怪我をした人のする運動のことだと思っていたけど、ご飯を食べたり、歩いたり自分で生活できるようにするためのものだと知った。
- ・リハビリテーションとは車いす等の道具を選んだり、自分でできることを増やしたりすることだと知った。

【車いす体験・高齢者疑似体験】

- ・助けるときに声をかけることが大切だと思った。
- ・車いすの方は自分で生活するために努力しているのだと思った。
- ・体が不自由な人でも自分で生活できるようになるための工夫があることを知った。
- ・車いすに乗っている人はドアを開けるのも苦労したので、家で生活するのも大変だと思った。

【リハビリテーションに関わる仕事を知ろう】

- ・理学療法士や作業療法士という仕事があることを初めて知った。
- ・体の不自由な人が自分で食事などをするのはすごいことだと思った。
- ・体の不自由な人でも自分で生活できるようにするために、いろいろな工夫があることを知った。
- ・障害のある方は何もできないと思っていたけど、できることはたくさんあるのだと思った。
- ・この講座で理学療法士の仕事に興味を持ったので、もっと調べてみたいと思った。

【感想】

- ・高齢者が困っていたら声をかけてあげたいと思った。
- ・体が不自由な人がいたら助けてあげたいと思った。

平成 29 年度「地域リハビリテーション出前講座」実施要領

1 目的

地域リハビリテーションとは、地域に暮らす全ての人が住み慣れた所で、その人らしく生き生きと生活できるようにあらゆる人々、機関が協力し合う活動を指す。高齢者や障害のある方を含めたあらゆる人々が安心して暮らすことの出来る地域社会の実現のためには、子供の頃から高齢者・障害者の特徴を理解することが望ましく、教育機関が地域リハビリテーション教育の機会を積極的に設けることが重要である。

本事業は、県が、希望する小学校にリハビリテーション専門職を派遣し体験講座を行うことにより、児童が高齢者・障害者の特徴や関わり方を学び、地域リハビリテーションに対する理解と関心を深めることを目的とする。

2 対象

出前講座の対象は、千葉県内の公立小学校（10校程度）に通う5年生又は6年生とする。

3 実施方法

(1) 実施方式

原則、授業（総合的な学習の時間）の一環として、クラス単位で講座を行うものとする。

(2) 講座内容

申込者の希望に基づき、講師と協議のうえ調整する（本講座で対応可能な内容の例示は別添のとおり）。なお、必要物品は原則、申込者が調達することとする。

(3) 講師

千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センター所属のリハビリテーション専門職

4 申込み方法

講座を希望する小学校は、平成 29 年 7 月 31 日までに、別紙「地域リハビリテーション出前講座申込書」により、健康づくり支援課地域リハビリ班に F A X 又は郵送で申し込みを行う。

＜申し込み・問い合わせ先＞

千葉県庁健康づくり支援課地域リハビリ班

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町 1-1

FAX:043-225-0322 TEL:043-223-2482

5 実施時期

平成 29 年 9 月 1 日から平成 30 年 2 月 28 日までの間で、申込者及び講師との協議により調整する。

「地域リハビリテーション出前講座」講座内容例

例1 車椅子利用者が困っていたら??

趣旨	車椅子利用者を例として、障害のある人や高齢者との接し方や環境の在り方の一例を理解します。
内容	体育館や校庭、昇降口等で車椅子の自走体験と押し方の体験をし、児童同士で自分ならどんな時にどのような手助けを、また、どんな声掛けをしてもらえたら良いか考えてもらいます。 さらに、高齢者や車椅子利用者が学校を利用する場合に、どんな工夫があれば利用しやすいのかを、体験を通して感じた事をもとに考えてもらいます
必要物品	車椅子（生徒4名に1台程度）
対応人数	40名以内
時間数	連続した2単位時間
その他	車椅子については、地域の社会福祉協議会などに問い合わせでご準備ください。 実施場所などについて事前に協議をお願いします。 事前学習として、車椅子利用者が学校を利用する場合に困りそうな段差がどこにあるか、どのようなことに不自由を感じるかを児童に考えてもらう機会を作っただけだと広がりができます。

例2 リハビリテーションに関わる仕事を知ろう

趣旨	体験を通して、リハビリテーションに関わる仕事（主に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）を知る。
内容	当日協力が得られる職種により体験の内容を検討します。 一例として… 理学療法士：身体の動かし方（立ち上がりや歩行介助、等） 作業療法士：着替えや食事動作の動作・支援方法、認知症に関すること、等 言語聴覚士：コミュニケーションの取り方や飲み込み、等 この他、上記専門職が働いている場面の動画等を視聴してもらうこともあります。
必要物品	関わる職種や体験内容で異なりますので、事前協議をお願いします。
対応人数	40名以内
時間数	体験内容によっては1時限でも可。応相談
その他	実施場所などについても事前に協議をお願いします。

地域リハビリテーション出前講座申込書

平成 年 月 日

申込者	所在地			
	(フリガナ) 学 校 名			
	(フリガナ) 担当者名			
	電 話		F A X	
	E-mail			
学年・クラス				
受講人数		名		
受講希望日程		第1希望：平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分～ 時 分 (限目)		
		第2希望：平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分～ 時 分 (限目)		
		第3希望：平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分～ 時 分 (限目)		
学習の「ねらい」を記載して下さい。				
希望する講座内容を記載して下さい。				
出前講座の前後に 関連授業を行いますか。 予備学習、振り返り、 発表会 等		事前 : _____ 行う _____ ・ _____ 行わない _____		
		事後 : _____ 行う _____ ・ _____ 行わない _____		
		※具体的な内容を記載して下さい。		
その他（申し込みのきっかけ、要望事項、配慮が必要なこと等）				

※申込み受付期間終了後に、上限数、希望日程及び地域的な偏り等を考慮し、調整を行います。
応募状況によっては御辞退いただく可能性があります。御了承下さい。